

令和7年度大野市子ども・子育て会議（第3回会議録）

- 日時 令和8年2月16日（月）午後7時～8時20分
- 会場 有終会館 結とぴあ 302号室
- 出席者 兼井委員（大野市民生委員児童委員協議会）、森藤委員（大野市PTA連合会）、山本委員（大野市立保育園保護者連合会）、長岡委員（地域子育て支援センター利用者）、玉木委員（放課後児童クラブ保護者）、森口委員（子育て交流広場ちくたつく利用者）、森田委員（大地の会）、松下委員（大野市小中学校校長会）、石田委員（大野市民間保育園）、谷口委員（公立保育園）、高村委員（大野市児童センター）、伊藤委員（大野商工会議所青年部）、杉井委員（奥越健康福祉センター）、久保委員（公募）
青井アドバイザー
事務局 山崎事務局長、岡課長、橋本課長補佐、平瀬課長補佐、松山企画主査

- 欠席者 國枝委員（大野市民間こども園保護者会連合会）

- 内容

事務局長あいさつ

- ・本日は、令和8年度の子ども関係の主要な取り組み事業について紹介させていただく。事業を進めるにあたってのご意見をいただければと思いますのでよろしく願いしたい。

1 委嘱状交付（大野市民生委員児童委員協議会において委員の改選による交代）

委嘱状を机上配布

任期は本日から令和9年6月30日まで

2 会長の互選について

（会長：兼井住子委員を選出）

○兼井会長あいさつ

- ・「こどもの笑顔は地域の宝」ということで、大野のこどもたちが輝く笑顔で過ごしてほしいと思っているが、なかなか何をすればよいのか難しい。

こどもたちに関わる方が一堂に集まってる中、勉強をしながら自分たちが何ができるか考えていきたい。よろしく願います。

3 議事

進行 兼井会長

(1) 令和8年度主要な取り組みについて 【資料1】

○特徴的な「教育・保育」の整理、見える化について【資料2】

<意見・質問等>

山本委員：(仮称)子育て支援と地域保育を考える会で、公立・民間の定員設定や公立保育園廃止の検討を行っていくということだが、過去に一度、阪谷保育園の廃止という話があった。今回のこの会議で阪谷保育園をなくすなどの話が出てくるのか。

事務局：この園を廃止していこうということではなく、子どもの数が減少しており、令和8年度末には約200人の園児が卒園する見込みである。またここ数年、1年間で生まれてくるお子さんの数は116人・119人であり約半分になることから、今後大野市として公立保育園をどうしていくのかというところで、このまま維持できるのか、廃止した場合どんな影響がでるのかなど、大きな視点で全体的に協議していく会としたいと考えている。もちろん子ども・子育て会議にも情報共有させていただき、意見をお聞きしながら進めていくこととしたい。

山本委員：阪谷保育園において、過去に保護者に話がないまま、知らないところで話が進んでしまっていたということがあった。今後新しい児童が入所しないと在籍が2世帯だけになり、このままでは無くなってしまふのかなという思いもあるが、急に来年度からなくなるみたいなことは避けてほしい。

事務局：子どもの数での議論にはなるが、当然保護者の方は就労と子育てを両立するために保育所に子どもを預けているところもあるので、丁寧に順を追って説明したいと考えている。新たに設置する会においても、委員に公立・民間保育園の保護者の代表の方に入っていただくようにしており、必要であれば、それぞれの保護者会などにも出向いて丁寧に説明し、ご理解をいただきながら進めていきたいと考えている。

○結リンク～大野で永年（ええねん）界限～の活動について 【資料3】

○結婚・子育てプロモーション冊子の作成（情報発信）について 【資料4】

<意見・質問等>

松下委員：プロモーション冊子の小学校教育の部分についてだが、大野の強みとして

「地域に根差した教育」や「ふるさと教育の実施」、「探究的な学習」などが挙げられる。学力の向上も大切だが、子どもたちが自ら問いを見つけ、課題を解決していく探究の力を育むことにも力を入れている。そのため、子どもたちが学びに主体的に取り組んでいる様子や、地域に貢献している姿が伝わる写真を掲載していただくと、より魅力が伝わる内容になると思う。

放課後の居場所だが、和泉小学校でいうと放課後児童クラブが学校と同じ施設内にあり保護者は安心して利用されている。有終南小学校も学校内の児童クラブになるとお聞きしているが、安心・安全につながるのもっとアピールするとよい。

事務局：大野市の小学校は、探究活動において県内でも有数と言っても過言ではなく、たくさん賞をとっている。意見いただいたことを冊子に反映したいと考えている。

兼井委員：若者といっても、結婚していない若者、結婚している若者など幅広い層がいる。若者20人が集まり、結リンクの中でいろんな交流やイベントを行っていくということでそれも大事だが、若者の声はどうしたら集まるのか。どんな方法がいいのか、みなさんの意見をききたい。

事務局：行政が若者を集めてイベントをしますといってもなかなか参加者が集まらないので、結婚や婚活という文字を前面に出すのではなく、若者による若者のための事業として今年度春にメンバーを募集した。集まったメンバーで話し合っただけの内容が自然体験であり、以前やっていた婚活イベントではなく、若者による若者のためのイベントになっている。

すくすく子育て応援パッケージについては、みなさんに広報していただき浸透してきているが、若者施策といったところではまだ物足りないものがあり、結婚前の方が結婚後も大野での生活がイメージできるような冊子をつくろうというものである。すくすく子育て応援パッケージは、どちらか

というと結婚後の子育ての情報がたくさん入っているが、更に結婚前の若者にも冊子を作り、大野の良さや、結婚後の生活がイメージできるようなものを作ろうというものである。

森田委員：大野市は障がい児にとって良いことが多く、他市町にはない支援もあるということを福井市の療育の先生から聞き、Uターンして大野に住んでいる。大野市の障がい児支援については充実していると感じている。もっとピックアップしていただけたらいいのではないか。

事務局：支援や補助などを行っていても、なかなか伝わっていないところが多く、やっていることがしっかり伝わっていないことは課題として事務局も持っている。障がい児支援についてはなかなか言いにくいところもあるが、しっかりと丁寧にきめ細かな支援としてやっていることを強みとしてPRしていきたいと考えている。いろいろご意見やアドバイスをいただけるとありがたい。

松下委員：プロモーション冊子1,000部となっているが、インスタにあげたりする予定はあるのか。

事務局：どうすれば若者に届くかというところを、若者の意見を聞きながら、冊子の配布と併せてインスタやSNSの活用も考えていきたい。

久保委員：若い世代になると紙媒体でもらってもすぐに捨ててしまうため、SNSの発信は大事だと感じる。インスタにおいても投稿だけでなく、ショート動画でスクロールで出てくると伝わりやすいのではないかと思う。

事務局：どちらが良いということではなく、紙には紙の良さがある。置いてあれば目に付き、手に取ってもらいやすいという利点がある。一方で、後から情報を調べたい場合には、SNSが有効である。

そのため、紙とSNSの両方をうまく活用していくことが大切だと考えている。

○不妊治療費助成の拡充について 【資料5】

○低所得世帯大学受験等支援について 【資料5】

<意見・質問等>

杉井委員：補助制度を使いやすく見直していただきありがたい。県の助成については、奥越健康福祉センターが直接窓口になっているもの、県庁のこども未来課が窓口になっているものがあり、それぞれ制度や自己負担額が異なるが、どちらも大野市の助成の対象になるのか。

事務局：大野市ではこれまで、保険適用外の不妊治療のみを助成してきたが、今後は保険適用・適用外を問わず、一般不妊治療や特定不妊治療など、県の助成を受けたすべての治療について、その自己負担額を助成することとする。

(2) 認定こども園の定員の変更について 【資料6】

<意見・質問等>

なし

(3) 特定乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）について 【資料7】

<意見・質問等>

なし

4 報告事項

(1) 病後児保育について 【資料8】

<意見・質問等>

森藤委員：病後児保育は、利用する時に発熱していたら利用できないのであれば、病後児保育利用のチラシ裏面は、発熱していたら利用できないということがあいまいで分かりづらい。

事務局：「病児保育」と「病後児保育」は別のもので、今回、大野市が再開するのは病後児保育であり、回復期のお子さんを預かるものである。一方で、発熱などの症状がある場合は、勝山市など他市町が行っている病児保育を利用していただくことになる。これまでも、今回と同様に医師連絡票の記入が必要だったが以前は栃木産婦人科医院で医師連絡票を記入していただき、そのまま病児保育を行っていた。今回は、認定こども園で病後児保育を行うため、いったん医療機関を受診して医師連絡票を書いてもらい、そのうえで利用する流れになる。

杉井委員：チラシを見て、自宅で看病した後の復帰の利用ということが分かりづらい。朝起きてこどもの調子が悪いから病後児保育を使いたいと勘違いしないか少し心配である。

事務局：これまでも、症状がある場合はまず受診することが大原則で、自分で判断するのではなく、感染症にかかっていないかどうかを医師に確認してもらうことが必須である。今後も、決して保護者が自己判断で済ませることがないように徹底していきたい。

青井アドバイザー

今回の委員構成は女性が多く、男性委員が極めて少ないため、意見が女性目線に偏らないよう配慮する必要がある。また、こども・若者計画を策定する際にも「情報発信」が課題として挙げたが、重要なのは当事者だけに向けた発信ではなく、その周囲にいる人たちへどのように情報を届けるかという視点が大切である。若者のプロジェクトを進めても、最終的にその地域で暮らすのは地域住民であり、高齢世帯や保護者世帯の理解がなければ、せっかく良いプロジェクトができてもしっかり活かされない可能性があり、長期的な視点で、周囲の人たちに方向性を丁寧に周知していくことが重要だと考える。また、縦割りではなく、行政と地域が連携して取り組むことが不可欠である。

冊子については、中身の充実はもちろんだが、見た目も大切であり、いかに目に留まるデザインにするかが重要なポイントになる。

こども誰でも通園制度では、全国一斉に開始される事業だが、自治体独自の特色を考えていくとよいのではないか。

(閉会のあいさつ)

森藤副委員長

委員のみなさんと情報共有ができ、活発な意見も交わされた。新会長のもと、良いスタートを切ることができたと感じている。前任の杉原会長が築いてこられた取り組みを引き継ぎつつ、これからも皆さんと力を合わせて、より良い会議となるよう努めていきたいと考えている。

本日は大変お疲れ様でした。